

ふくし TIME'S

<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/>

福祉タイムズ



ともしび運動

6

2007 No. 667



〈写真・菊地信夫〉

「何処よりも子どもの心が安らぐ場所」

矢部皖一さん（88歳）がお兄さんから児童養護施設成光学園の運営を引き継いだのは昭和52年。戦中戦後、農事によって孤児、浮浪児を養育したことに始まる施設の法人名は座間農場だった。近所の座間小学校のガキ大将は常に学園の子ども。ケンカ相手の子どもの家へ矢部さんが菓子折りをもって挨拶に行くことはしょっちゅうだった。だが、「最近はおとなしくなりましたね」と、時代の移り変わりを思う。

現在、学園に来る子どもの多くは虐待を背景にもっている。「一人ひとり、いろいろな所で生まれて、いろいろなコースをたどって社会に出ていくんです」。多額の借金を返し、社会福祉法人の認可・設立を経て園長を三代目に引き継いだ今も、「ここには子どもが育っていくための大切な仕事があります」と、子どもの居場所のあり方に思いを馳せる。保育士、指導員、臨床心理士、家庭支援専門相談員、調理士らとともに、子どもが心静かにいられる場所づくりの日々。自己資産に寄付や補助金を集めて、ようやく寮の改築に着手できた。竣工する10月を楽しみにしている。

CONTENTS

特集

平成18年度県社協事業報告・決算…………… 2

NEWS&TOPICS…………… 4

参加と協働

福祉教育の多様な広がりに向けて…………… 6

連載

神奈川の福祉は今ー横須賀市の巻ー…………… 10

県社協のひろば

ともしび基金果実による地域福祉実践の広がり… 12

かながわHOT情報…………… 16

県域における地域福祉推進機関としての役割を

～平成18年度県社協事業報告・決算～

本会では、昭和63年に「県民の主体的参加による地域福祉の実現」を目指した活動推進計画を策定以来、5か年ごとに各時代のニーズや社会動向を踏まえた計画を策定してきました。

平成17年度には新たな諸課題に対応しつつ、今後

5か年の本会の果たす役割や機能などを明確に示した「神奈川県社会福祉協議会活動推進計画（平成18～22年度）」を策定し、昨年度はその初年度として新たな取り組みが実施されました。主な取り組みの概要を報告いたします。

特集

誰もが参加でき、 ともに支えあう機会づくり

平成十八年度は、「ともに生きる福祉社会づくり」を目指し行動してきた『ともしび運動』が提唱三十周年を迎えました。その記念事業として、県社会福祉大会において「ともしび運動三十周年記念講演」を行ったほか、「ともしびショップ新エプロン」のデザイン公募や「ともしびの歩み展」の実施、様々な啓発資料の発行等を行いました。さらに、これを機に運動の理念の再確認をするため、運動の「新行動指針」策定に着手し、新たな運動の展開へつなげる予定です。

また、広域的な視点での取り組みとして、障害や疾病を抱える人たちの拠り所として「セルフヘルプ相談室」の運営や、当事者が生活の中で様々な人たちとかかわりを持ち、当事者及び周辺の人々との相互理解を促進するための協働事業を実施したほか、障害者や高齢者等へのIT機器普及に向けては、支援者の養成や地域拠点の開設準備支援を行いました。

次に、シニア層への社会参加の場づくりや生きがいづくりの支援として、シニアフェスタの開催やねりんピックへの選手団の派遣、また次世代育成支援活動の促進にも取り組み、高齢者の子育て支援にかかる活動に参加するための具体的な対応策の検討やシニアの子育て支援に関する課題の共有を図りました。

生活圏域を基盤とする 地域福祉の推進

日常生活圏域における暮らしやすいまちづくりに向けて、具体的な生活課題に対応するための住民活動や各種福祉サービスのネットワーク化の促進を図り、「コーディネート機能」の大切さや、外国籍県民との共生のための地域生活のあり方、多文化共生の地域づくりに向けた課題と対応について検討しました。

特に本県独自の取り組みである「地域福祉コーディネーター」の概念の普及・育成では、日常生活圏域や市町村域・県域と、その推進を図るための取り組みを行いました。

福祉団体・機関、福祉施設等との連携・協働については、国における

諸制度改革などをふまえ、地域福祉の推進に関する共通課題の解決や改善に関する検討を行い、特に障害者自立支援法の施行に伴う障害者施設経営の諸問題の解決に向けて、改善等に関する要望書を県知事あてに提出しました。

民生委員児童委員や保護司との連携では、地域住民の生活と安心を守るために成年後見制度と消費者保護に関する課題等への意見交換を行ったほか、更生保護・青少年の非行防止などの活動を中心とした生活圏域での総合的な地域福祉の課題解決に向けた取り組みの推進を図りました。

さらに、市町村社協への支援としては、地域福祉推進の中核的な役割をより一層果たすため、社協内の自己点検による課題の把握と整理を基に、組織運営基盤強化指針の推進に向けたチェックシートの第一次案を作成し、検討を行いました。





安心して生活できる

サービスの確保

高齢者や障害者の権利の擁護を図るため、市町村社協や関係機関・団体と連携し、福祉サービスの利用援助事業等に取り組んだほか、高齢者虐待防止法の施行や介護保険法改正などの権利擁護にかかわる社会動向の変化に対応し、市町村社協の担当者などに向けた研修を実施しました。さらに、市町村社協における地域福祉権利擁護事業の実施要綱を改正したことに伴い、その運用状況について現地調査を行いました。

また、福祉サービス事業者の自己評価の取り組みについては、事業者自身による自己評価活動の促進を図り、さらに利用者意向調査の仕組みづくりを中心に、自己評価ツールの作成に取り組みしました。

福祉人材の確保については、福祉分野での人材確保が困難になっている中、インターネットシステムがリニューアルされ、求人登録がインターネット上で可能になるほか、事業所情報なども掲載されることになり、求人・求職活動がより迅速に行

える環境を整備しました。

社会福祉施設経営法人への支援では、一二三件の福祉施設経営相談に応じたほか、会計専門指導事業（自主監査事業）を三法人で実施しました。また、福祉従事者の育成については、とりわけ幹部職員対象の研修を行い、マネジメント力の強化に向けた支援を行いました。

生活福祉資金貸付事業では、長期生活支援事業が昨年度とほぼ同列の実績となったほか、平成十九年度に新設される「要保護世帯向け長期生活支援資金制度」への対応について、関係者との打ち合わせを行い準備をすすめています。

福祉用具等の利用支援については、広域的な立場で、市町村や関係機関のイベント等に積極的な参加支援を行ったほか、福祉教育、福祉意識の啓発を目的に、中学生から高齢者までの幅広い世代の参加を得たコンテンツの開催や、自助具への理解をより深めるための啓発冊子を発行いたしました。

また、福祉関連情報提供機能として、県内の社会福祉施設・団体（約七千五百件）をとりまとめ、CD・

ROM版として頒布したほか、「福祉タイムズ」に、季刊誌「ともしび」と市民活動情報誌「るるる」を六月号より統合、増ページし、福祉動向を反映した情報を掲載しました。

県社協の経営体制 及び財政基盤の強化

平成十八年度の大きな特徴として、理事・評議員の選出方法の検討を行い、役員を事務局職員から選出し円滑な事業執行を図ったほか、従来の各種運営委員会機能を統廃合し、四つの重点項目別推進委員会に理事が分担して参画することで、理事の意見がより反映される仕組みを作りました。

また、会員枠のあり方に関する検討については、さらなる理解と協力を得ていくためにも継続した検討と意見交換を行う予定です。

※決算報告は13面参照

（企画調整・情報提供担当）



全国自立生活センター協議会 障害者の差別禁止にむけて 公開セミナー開く

五月二十日、パシフィコ横浜において、全国自立生活センター協議会主催の公開セミナー「条例をつくって障害者差別をなくそう！」千葉県の条例づくりから学ぶ」が開催されました。

はじめに堂本暁子千葉県知事から条例策定にいたる経過が報告され、続いて竹林悟史氏（元千葉県障害福祉課長）より条例概要の説明がありました。そして条例設置に大きな役割を果たした「障害者差別をなくすための研究会」座長の野沢和弘氏（毎日新聞社社会部副部長）から、条例から見えてきた差別禁止の動きがエピソードを交えて話されました。最後に、国連の障害者権利条約に詳しく、障害当事者でもある東俊裕弁護士より、権利条約のコンセプトと今後の課題が提起されました。

この条例の特徴は、県民から教育・雇用・福祉など様々な分野で差別に当たると思われる事例を広く募集（約八百件）したこと、一般公募し

た各分野の委員（二十九名）と一年間にわたり二十回の議論を重ね、各地でタウンミーティング（三十ヶ所のべ三百人以上）を開催したことにあります。通常、条例づくりは行政主導で行われますが、最初から協働で作り上げるプロセスが大切にされています。

日頃、このような参加を経験したことのない障害当事者の家族達が、このプロセスを支え、後押ししたことが、県議会での撤回から再提案、成立への原動力になったと、知事をはじめ各パネラーは強調しました。参加者は五百名を超え、条例への関心の高さがうかがわれます。

（企画調整・情報提供担当）

民生委員児童委員活動の実際を紹介 全民児連・県民児協によるPR

大正六（一九一七）年、岡山県で現在の民生委員制度の元となる「済世顧問制度」が始まってから九十年目の今年、全国民生委員児童委員連合会では民生委員児童委員の活動をドラマ化したビデオを製作しました。

五月十二日の「民生委員・児童委

員の日」を皮切りに、民放やケーブルテレビなどで放映されています。

また、神

奈川県民生委員児童委

員協議会でも今年十二月の民生委員児童委員一斉改選（三年に一度）に向けてパンフレットを作成しました。

新任民生委員児童委員の中で三年の任期を全うされずに退任される方が増える傾向にあり、その背景として、委嘱時に聞いた職務内容と実際とのギャップが挙げられています。

そこで、パンフレットでは民生委員児童委員の法的位置づけや活動内容を分かりやすく、実態に即して説明しています。今後、民生委員児童委員を推薦される推薦委員や、新しく民生委員児童委員になる方々にぜひご覧いただきたいと思っています。

問合せ先 ☎ 045-1311-1427

（県民生委員児童委員協議会）



活動の実際がわかるパンフレット（県民児協作成）



平成十八年度共同募金・配分結果のご報告

平成十八年十月一日から三ヶ月間にわたり実施した共同募金運動に、皆さまから十二億五千四百四十万円を超えるご支援をいただきました。

平成十八年度は、県内七百三十一件の福祉施設・団体から、配分計画額十二億五千二百万円を一億三千万円上回る十三億八千二百万円もの配分申請が寄せられたため、あらかじめ定められた「配分基準」により配分を行うことが困難な状況となりました。

本会「配分委員会」では、公正な配分を実施するため、申請施設の現地調査などをもとに慎重に配分案の策定作業を行いました。

その結果、児童・障害者・高齢者等に対する福祉活動を公平に支援するため、対象施設・団体ごとの配分額を一律に減額、配分資金全体の調整を行うことになり、平成十九年三月に開催した本会「理事会」、「評議員会」の審査を経て、後掲のとおり配分が決定しました。

共同募金運動にいろいろな立場でご協力をいただきました皆さまに、厚く御礼申しあげ

ますとともに、本会の事業に引き続きご支援くださいますようお願いいたします。

平成18年度共同募金・使途概要

▽地域福祉を推進する市区町村社会福祉協議会の活動支援に（58団体）	350,011,379円
▽児童・障害者・高齢者のための法定社会福祉施設等の活動支援に（109施設）	156,593,240円
▽障害者の自立・就労訓練を行う障害者地域作業所等の活動支援に（157施設）	101,964,426円
▽児童・障害者・難病当事者・被虐待女性支援団体等の活動支援に（95団体）	80,380,383円
▽家事介護・配食・送迎サービスを実施する社会福祉団体の活動支援に（217団体）	45,600,000円
▽市区町村を単位として実施される年末たすけあい援護活動に（57団体）	425,297,128円
▽市区町村ごとに共同募金運動を展開するための募金資材の作成等に	57,990,000円
▽全戸配布資料の作成や小中学生福祉作文コンクールの開催事業等に	77,506,000円

合 計（693件） 1,295,342,556円

※上記使途財源には、前年度繰越金等を含みます。

一般会計 各経理区分収支一覧表

自：平成18年4月1日～至：平成19年3月31日

（単位：円）

経理区分名 内 訳	本部経理区分	寄付金経理区分	たすけあい福祉 資金経理区分	受配者指定寄 付金経理区分	合 計
1 収入総額	144,357,121	1,274,569,582	174,757	193,892,428	1,612,993,888
2 支出総額	142,541,426	1,300,566,452	2,840,000	426,989,595	1,872,937,473
3 当期繰越活動 収支差額 (1-2)	1,815,695	△25,996,870	△2,665,243	△233,097,167	△259,943,585
4 前期繰越活動 収支差額	21,314,301	174,489,466	18,260,175	233,650,795	447,714,737
5 積立金積立額	2,000,000	0	0	0	2,000,000
6 次期繰越活動 収支差額 (3+4-5)	21,129,996	148,492,596	15,594,932	553,628	185,771,152

貸借対照表〔平成19年3月31日現在〕

（単位：円）

資 産 の 部				負債及び純資産の部			
科 目	平成17年度	平成18年度	増 減	科 目	平成17年度	平成18年度	増 減
流動資産	1,386,790,907	1,151,367,523	△235,423,384	流動負債	912,032,294	968,166,006	26,133,712
預貯金	1,246,222,907	1,014,322,510	△231,900,397	未払配分金	851,989,440	888,639,732	33,650,292
次年度運動積立 預金	140,568,000	135,496,000	△5,072,000	未払金	331,732	2,736,000	2,404,268
未収金	0	1,349,013	1,349,013	関係者貸付金	34,440,000	24,440,000	△10,000,000
固定資産	155,892,924	161,198,845	5,305,921	災害準備金	51,337,924	51,337,924	0
基本財産	9,300,000	9,300,000	0	預り金	940,198	1,002,950	62,752
基本財産特定預金	9,300,000	9,300,000	0	能登半島地震義 援金預り金	0	10,000	10,000
その他の固定資産	446,592,924	451,898,845	5,305,921	固定負債	35,635,890	39,328,610	3,692,720
退職給付積立預金	35,635,890	38,835,800	3,200,000	退職給付引当金	35,635,890	39,328,610	3,692,720
運営費積立預金	23,000,000	25,000,000	2,000,000	負債の部合計	977,669,094	1,007,495,216	29,826,122
たすけあい福祉 資金積立預金	385,000,000	385,000,000	0	基本金	9,300,000	9,300,000	0
車両運搬具	2,347,230	2,347,230	0	基本金	9,300,000	9,300,000	0
備品	5,223,325	5,268,715	45,390	その他の積立金	408,000,000	410,000,000	2,000,000
減価償却累計額	△6,613,631	△6,532,900	60,731	運営費積立金	23,000,000	25,000,000	2,000,000
職員厚生会貸付金	2,000,000	2,000,000	0	たすけあい福祉 資金積立金	385,000,000	385,000,000	0
				次期繰越活動収 支差額	447,714,737	185,771,152	△261,943,585
				純資産の部合計	865,014,737	605,071,152	△260,943,585
資産の部合計	1,842,683,831	1,612,566,368	△230,117,463	負債及び純資産 の部合計	1,842,683,831	1,612,566,368	△230,117,463

平成十八年度・受配者指定寄付金の公表

厚生労働省通知にもとづき、配分額が三千万円を超える「受配者指定寄付金」の配分内容を、次のとおり公表いたします。

▽社会福祉法人ケアネット 「配分額」一億円 「使途」特別養護老人ホーム「シエ・モア」の建築資金 「寄付者」医療法人社団ジャパンメデイカルアライアンス
▽社会福祉法人怡土福祉会 「配分額」六千四百三十三万円 「使途」特別養護老人ホーム「北八朔」の建築資金 「寄付者」医療法人社団朝菊会

（県共同募金会）

☎ 045-312-6339

神奈川県共同募金会・平成十八年度決算のご報告

本会・定款第三十八条の規定にもとづき、平成十八年度収支決算内容を、次のとおり公告いたします。



「福祉教育の多様な広がりに向けて」

福祉教育プログラム開発検討委員会報告書まとまる

福祉教育って特別なもの？

「福祉教育」という言葉を聞いたとき、どのような活動を思い浮かべるでしょうか。車いす体験、高齢者疑似体験、点字や手話の学習。他にいくつもあるでしょう。

福祉教育を進める際のポイントは、学ぼうとする人の「関心」を育て、形にしていくことです。その前提として地域の人々の多様な生活や価値観を理解することがあります。

人々の生活はいつも順風満帆という訳にはいきません。人生においてはいろいろな心配事や困ったことが生じてきます。それぞれが抱える心配事に関心を持ち、それを受け止めて、解決していくための方法をひとりひとりが、あるいはみんなで知恵を出し合いながら、考え、学び、参

加することそのものが、「福祉教育」とあると考えられます。

四つのイベントミスマッチ

時代に即した福祉教育のプログラムを用意するため、昨年度、県社協は福祉教育の現場に携わる関係者の協力を得て福祉教育プログラム開発検討委員会を設置しました。そして各委員からレポートされる多様な実践の成果から一定の報告をまとめることができました。

私たちは日常生活の中でいろいろな出来事に遭遇します。そして、自分の関心にあわせて人生を選んでいくといえます。その関心を、考え、学び、参加につなげていくためには、それぞれの場面に応じたサポートを考える必要があります。

本報告書では、それを「人づくり」

「場づくり」「情報づくり」「ネットワークづくり」という四つのつくりから整理しました。また、キーワードを「ミスマッチ」と設定し、学校や施設、中間支援組織、地域における取り組みからミスマッチが生じた状況を分析し、そこにある課題の解決に向けた方法を検討しました。

ミスマッチはいわば失敗例です。委員会では専ら失敗談が語られました。委員会を重ねるごとに、失敗から学ぶ事柄が蓄積され、よりマッチした取り組みがなされるアイデアが生まりました。いつしか「失敗しない方法を探る」から、「失敗は多かれ少なかれ生じる。失敗が生じながらも、福祉教育に関心をもった人の気持ちをいかに汲み、広げていくことができるかが大切」という考え方向へと移っていったのでした。

三つの提言といれがら

報告書は三つの提言をしています。一つ目は「自分たちで創造するボランティア活動—自分たちの気づいたこと・思いを大切に—」です。

現在のボランティア活動は、福祉・環境・国際理解・青少年育成など、

～「ベストマッチ」へのヒント～

人

- ・自分たちの身の回りにどんな人たちがいて、どんな活動をしているのか、興味を持って探求しましょう。
- ・学校での担当者（先生）を知っていますか。社会福祉協議会を知っていますか。担当者を知りましょう。
- ・時にコーディネーターとなり、時に活動の参加者となり、自分と地域の接点・役割を考えましょう。

場

- ・地域の中にある、いちばん身近で魅力的なハードであり、ソフトでもある学校を知りましょう。
- ・関心のあること、やってみたいことを、みんなで話し合い、形にできる場ってどんな場所でしょう。
- ・「協力」ではなく、「参画・協働」になるためには、地域へのどんな働きかけが必要か考えましょう。

情報

- ・活動情報は分かりやすく、参加者に応じてステップアップ（または多様化）しましょう。
- ・「収集・提供」だけでなく、「共有」を意識しましょう。また、「感想」や「気付き」も大切です。
- ・効果的にホームページやメーリングリストなどのツールも活用しましょう。

ネットワーク

- ・単発の関係でなく、ひとつの活動から生まれるつながりを大事に継続していくネットワークを。
- ・一方通行ではなく、双方向のネットワークを。さらにサイクルとして稼動するネットワークに。
- ・「定着」しても「膠着」しないため、変化を楽しみ、変化に対応できるネットワークを。



様々な分野で用意されています。しかし、用意されたプログラムはその本人にとって本当にやりたいことなのか、興味のあることなのかを問い返すことを促しています。お菓子の商品開発のように「あったらいいな」をみんなで自由に話し、創造できる場をつくるという提案です。

二つ目に、学校内にボランティア活動についての相談、情報交換・情報提供、振り返り、フリートークができるコーナーを設け、先生や生徒、地域の人と対話する「学校内コーディネーター」を置くことを提案

しています。

三つ目は、学校をハード、ソフトの両面から地域における魅力的な資源と捉え、コミュニティカレンダー作りを通じた連携策をもつことを提案しています。

協働から生まれるベストマッチ

新たな年度がスタートして二か月と少しが経ちました。夏休みに向け、子どもたちの体験プログラムも多数組まれてきています。また、総合学習のテーマ設定や授業の方法を検討している先生もいることでしょう。

そのような時は、近くの社会福祉協議会に相談を持ち込み、アイデアを練ることがひとつの方法です。企画の段階からかわりを得ることで、よりよい内容が期待できます。また、施設や地域と相互にプログラムの目的を交わし、学びの機会を展開すると、受け入れる側も参加する側も双方ともに達成度が高くなります。

初めから終わりまで、企画したプログラムがすべてスムーズに運ぶことはめったにありません。授業のゲストティーチャーやイベントだけの付き合いだけではなく、「 mismatch」を共有しながら、準備や振り返りをともに進めることが大切なのです。忙しい先生が学校内でボランティアコーディネーターの役割をさらに持つことはとても厳しい状況があります。また、施設など体験を受け入れる側も、事業が重なる時期に協働することは負担が大きいといえます。受け入れを依頼する側と理解する側とが、少しずつ mismatch を理解・共有し、工夫していくことがベストマッチにつながります。

（かながわボランティアセンター）

小田急江ノ島線で ふじさわの旅

梅雨の季節となり、おでかけするのもお天道さまのご機嫌をうかがいながらの日々が続きます。今回は小田急江ノ島線に乗って、雨が降っても楽しく過ごせる屋内の人気スポットへ遊びに行きましょう！

NPO法人 ままとんきっず

1993年、子育て中のおかあさんが集まり、子育てタウン情報誌「ままとんきっず」を発行。以後、子育てに関するメール相談、地域の親子が集うサロン運営、各種講座の開催など、子育て支援活動を展開。2004年「かながわボランティア活動推進基金21ボランティア活動奨励賞」、2006年「第19回神奈川県地域社会事業賞」を受賞。おかあさんたちの目線による情報誌・単行本の発行物は30冊を数え、一部は海外でも翻訳出版。最新刊は「ままとんきっず15号 子どもを守る！ お医者さん特集・川崎」（ままとんきっず）、「先輩ママの『私はこうして乗り切った！』妊娠・出産／0歳児／1歳児」3冊シリーズ（P・HP研究所）、「各駅発!! ファミリーおでかけガイド神奈川」（メイツ出版）。
〈連絡先〉川崎市多摩区菅田堤3-5-43 ☎/FAX: 044-945-8862
HP: <http://www.mamaton.jp.org/>

なんでも手に取って体験できる 「湘南台文化センターこども館」

まず、小田急江ノ島線湘南台駅にある「湘南台文化センターこども館」をご紹介します。

湘南台駅は相鉄いずみ野線、横浜市営地下鉄も乗り入れ、各方面からも好アクセス。駅は地下にあり、こども館へは東口E出口からエレベーターを利用できます。E出口そばにはオムツ替えシートが備えられた女性トイレがあり、便利です。

湘南台文化センターこども館は展示品にどんなにさわって、いろいろな体験ができる楽しい施設です。B一階展示ホールには世界各地の民族衣装、楽器、おもちゃがあり、実際に着たり音を鳴らしたり遊んだりできます。「森のコーナー」のすべり台には小さな子どもたちが大喜び。次々と光るボタンを押して反射神経を試す「すばやくタッチ」では親子でいい汗をかけます。

二階展示ホールには、テレビのリモコンなどから出る赤外線を見られる望遠鏡や太陽のまわりを惑星がまわる様子を自分でハンドルをまわし

て見られる模型、幼児から小学生まで夢中になるコンピュータが設置され、時間がたつのを忘れてしまします。三階のプラネタリウム、毎週土日曜のワークショップなど、お楽しみはまだまだ盛りだくさん。何度訪れても飽きることはないでしょう。



初めての体験に大興奮の湘南台文化センターこども館

館内はすべてエレベーターで行き来でき、B一階、一階、二階の女性トイレにはオムツ替えシートやベビーベッド、B一階、一階にはベビーキープ、B一階の男性トイレにはオムツ替えシートが設置されています。

ミルク用のお湯は各自で用意して行くことが必要ですが、授乳の際はスタッフに声をかければ救護室を使わせてもらえます。

「新江ノ島水族館」では 海の生きものたちに魅了

次は、小田急江ノ島線の終点、片瀬江ノ島駅にある「新江ノ島水族館」です。

電車を降りてからは駅構内にも段差がいっさいなく、ベビーカーにはやさしい道のりです。駅の女性トイレにオムツ替えシートがあります。できれば新江ノ島水族館の入場口の奥にある女性トイレを利用するのがおすすめです。海をイメージした落ち着いた空間にオムツ替えシートやベビーキープが完備されています。全身を映す姿見で身だしなみをゆつくりと整えられ、ほっと一息つくことができます。



大人も子どもも圧倒される新江ノ島水族館の「相模湾大水槽」



「スプラッシュ！」ではイルカたちの見事なジャンプに大感激！

オムツ替えシート、ベビーキープは、館内各所の女性トイレや多目的トイレにも、もちろん用意されています。授乳室は一階、二階それぞれに設けられ、ミルク用の給湯設備もあります。階段やエスカレーター、そばにはエレベーターが備えられているので、展示順路をスムーズに見てまわれるのがうれしいかぎり。わからないことは二階の総合案内で聞きましょう。

さて、ぶーんと潮の香りが漂う館内で最初に迎えてくれるのは「相模の海ゾーン」。海洋生物の宝庫である相模湾を再現した大型水槽で、九十種二万匹の魚たちが泳いでいます。「深海コーナー」では水深二百メートル以上で生息する深海生物の長期飼育に、日本で初めて挑戦中。今

まで見たことがない神秘的な深海の世界に心がときめきます。常時、約十種のクラゲが浮遊する「クラゲファンタジーホール」も、その美しさに心奪われることでしょう。

子どもたちの歓声が響きわたるのはイルカとアシカが登場する「スプラッシュ！」。すばやく泳ぐ姿に驚きの「ペンギンストーリー」やスタフが水中で魚たちを紹介する「フィインズ」、「うおゴコロ」などのさまざまなショーも、毎日行われています。また、六月三十日(土)まではイベント「Enjoy! Rainy Days!! in 新江ノ島水族館2007」を開催。開館時に雨が降っていたら、プレゼントのチャンスや人気グッズの割引販売などがあります。雨降りが続く季節も、お出かけを上手に楽しみたいものです。

＝インフォメーション＝

湘南台文化センターこども館

☎0466-45-1500

小田急線・相鉄いずみ野線・

横浜市営地下鉄湘南台駅東口

より徒歩3分

新江ノ島水族館

☎0466-29-9960

小田急線片瀬江ノ島駅より徒

歩3分

※詳細はHPを参照。または直接お問い合わせください。

ともしびショップに「県立四季の森公園」の紹介

今回は、横浜市緑区にある「県立四季の森公園」で売店を運営しているともしびショップ(運営…(福) 偕恵園)をご紹介します。

JR横浜線中山駅南口から商店街を抜け、四季の森公園プロムナードを十五分ほど歩くと、公園の北口に

着きます。売店は園内の南口広場付近にあり、飲み物やお菓子、子ども向けの玩具のほか、偕恵学園で製作する陶芸品などを販売しています。



長の渡辺さんが話すとおり、売店にはたくさんの方がやって来ます。毎日、散歩の際に寄ってくださる常連さんたちは、店員と気さくに言葉を交わします。

「立ち仕事も慣れました」と言う店員たちの働きぶりは、常連さんたちに褒められるほどです。彼らの笑顔と親しみやすさは、この売店の大きな魅力です。

天候の影響を受けてしまうのが悩みですが、土日やGWなどの休日は大忙しで休む暇もないとのこと。

園内を散策したあとは、売店のベンチでひと休憩。そこ

には、遠足で来た園児たちや子ども連れの母親、散策中のご夫婦など、さまざまな人が訪れます。

「いろいろな人たちがふれあえるところがショップのよさ」と店

は心地よい風が吹き抜けます。六月はホタルの舞う姿も見ることができそうです。皆さんもぜひお出かけください。

◆県立四季の森公園ともしびショップ◆☎045-931-7888

横須賀市の巻

ソーシャル・インクルージョンをすすめる



今年、市制百周年を迎えた横須賀市は、県南東部の三浦半島に位置する中核市です。市の中央部は丘陵が多く、海岸線は埋め立てが古くから行われています。地理的な特徴とともに、幕末のペリー来航など、近代史の要所であり、今も歴史を大切にしている地域です。戦後、地区を基盤とした地域福祉が展開されてきました。

歴史ある地区社協

日常生活圏域における福祉活動の推進が全国で進められている今日ですが、横須賀では昭和二十八年に十七地区社協が発足していました。

昭和六十二年頃から地区社協には地区ボランティアセンターが順次設置され、現在ではすべての地区で貸貸事務所などを利用した拠点確保されています。民生委員や応募した住民が担うボランティア相談員が、住民の相談を受けコーディネートを行っており、平成十七年度はのべ八百

五十九件の実績をもちます。

相談の主は、高齢者、障害者、子育て中の者、施設、病院、学校、行政など様々ですが、そのうち六十四・五％が高齢者のニーズです。地区の状況に合わせて対応が図られています。

一人ひとりの意思を大切に

昭和五十八年に市内で初めての肢体不自由者作業所を設立した川島美行さん（五十七歳）は、「NPO法人たけのこ会」の事業展開に現在も励んでいます。代々、横須賀市在住だという川島さんは、他地域への転居を考えたことはありません。脳性麻痺であることによる生活のしづらさを解消するために、足りないものは仲間とつくって、今の生活様式にいたりしました。「社会サービスとして欠かせないものは、市行政の担当者などに随時申し入れて整えられてきました」と、お互いに理解しあう関係が大切であると語ります。

地区社協の概況（平成18年度版・市社協作成）

地区名	人口総数	年少人口率 (0-14歳)	老年人口率 (65歳以上)
港南	12,631	10.34%	26.87%
中央	9,014	14.72%	18.92%
安浦	8,869	17.54%	15.82%
三春町	8,916	9.53%	25.94%
上町第1	10,579	9.57%	28.37%
上町第2	15,984	9.65%	28.80%
追浜	30,350	10.97%	23.64%
田浦	19,885	11.39%	23.04%
逸見	12,707	10.04%	20.45%
衣笠	63,937	12.82%	22.28%
大津	42,583	12.80%	20.60%
浦賀	51,351	14.27%	20.90%
久里浜	54,926	13.82%	18.85%
北下浦	35,407	14.75%	17.79%
武山	23,532	14.27%	18.23%
長井	9,359	13.31%	22.63%
大楠	13,233	12.11%	23.09%

昭和四十年代に横須賀へ転入してきた西野英子さん（六十六歳）は、認知症に対応するサービスが全く無かった時期に家族介護の負担を経験しました。メンバーとなった「在宅介護者の会いずみ会」は昨年、二十周年を迎えました。「介護保険が始まって情報収集がしやすくなりました」と、環境の変化を実感しています。同会メンバーで現在、妻を介護中の野崎民雄さん（七十三歳）は、「妻は市の体操教室を気に入っています。介護保険サービスをよりもこちらを利用したいと言うのでそうしています」と選択肢が複数あることが、負担感を減らしていると話します。ご自身も詩吟など新たな趣味をもち、障害

面積：100.68平方km

人口：421,180人（2007年4月1日現在）

高齢化率：22.27%

施設数：高齢者福祉施設等114

（特養・老健・グループホーム・デイサービスセンター等）

障害者福祉施設等83

（授産施設・療護施設・作業所・グループホーム等）

保育所・幼稚園78

ひと・ネットワーク 176

福祉の原点は
「相手を思いやる心」

相模原市民生委員児童
委員協議会
会長 相川 真慶



神奈川の北部に位置する相模原市は、平成17・18年度の2回にわたり、旧相模原市と津久井郡4町が合併し新相模原市となりました。人口はおよそ70万人、市域は東西に35キロメートル、南北に20キロメートルで、都市部と神奈川の水がめを擁する山間部とがひとつになった、とても魅力のあるよい町だと思っています。

民生委員児童委員である私は、この合併によって、「福祉とはこういうものだ」とあらためて感じています。

相模原市では約870名の民生委員児童委員が、法律で定められた単位の民児協を地区ごとに組織し、活動しています。

全市22地区民児協の会長さんが集まる毎月の定例会は、市の中心部で行われるため、旧町の会長さんの中には1時間もかけて出席する方もあります。このことはやむを得ないことですが、比較的近い旧市の会長さん達は会議の開始と終了時間に気を配ってくださいます。

また、地区民児協ごとに実情に合わせた活動が行われており、「旧町ではどうされていましたか」、「長い間に培った地区の活動が大切です」など、それぞれの実践を尊重する言葉が交わされます。

地区の民生委員児童委員の皆さんをコーディネートする立場の地区民児協の会長さんの配慮を見る時、全市の民生委員児童委員が一心となる日の近いことを感じています。

地域福祉計画のエッセンス

を持つ人との関わりができたなど、今も生活は広がっている様子です。市内には様々な福祉施設があります。その居住施設利用者においても、自分の望む生活様式や自身の思いを表現することが大切にされる環境づくりが進められています。

平成十六年二月に策定された「よこすか地域福祉計画」は冒頭に、計画の目的である「ソーシャル・インクルージョン」について、「社会福祉法の新しい理念であり、差異や多様性を認め合う地域住民相互の連帯や心のつながりを築くという考え方

です」と記述しています。

計画の重点施策の一つに「よこすか福祉の輪市民会議」の設置があります。この会議は、住民自らが、自分たちの抱える課題を、自分たちの地域に合ったやり方で解決していくために、平成十六年八月から、約百人で構成しています。

メンバーは、民生委員児童委員や地区社会福祉協議会役員といった日頃から福祉に携わる人々ばかりではありません。自治会関係者、あるいは地域活動への参加経験が少ない市民など、さまざまな背景を持ち、福祉に対する意識も多様な人々が一緒に活動しています。現実的かつ多面

的な検討内容は、去る五月十七日の活動報告会において中間報告が出されました。

「地域福祉特区事業」も計画施策のひとつです。地域の課題解決にむけて自分たちで取り組んでいる事業を市内団体から募集し、モデル事業としてふさわしいものに年間十万円を助成するものです。

他地区への展開の可能性が重要な選定基準です。町内会・自治会が主体となった福祉ボランティア活動、同じ地区の住民による任意団体の家事・育児に関する生活支援サービスなど、平成十七年度からこれまでに五事業が認定されました。横須賀市担

当者は、「市民協働を重視し、地域住民あるいは地域コミュニティによる自発的な取り組みの小さな芽を生かしたい」と考えています。

気づきと参加

横須賀基督教社会館の岸川洋治館長が「住みよいまちをみんなで作る」という考え方が根底に流れていて、地域の問題に気づくと、その解決の主体として行動していくんですね」と、民生委員の地域を見守る活動や「田浦町たすけあいの会」の給食サービスなど、様々な市民活動の基盤について評するとおり、横須賀には貴重な資産があるようです。



役員会の動き

◇理事会 5月24日(木) ①正会員

の入会申し込み、②理事の推薦、③監事の推薦、④評議員の選任、⑤各種委員会委員の選任、⑥ともしび基金設置運営規程の制定、⑦平成18年度県社協事業報告並びに収入支出決算報告(案)、⑧平成19年度一般会計並びに特別会計補正予算(案)

◇新会員紹介

【経営者部会】(福)たすけあいゆい、(福)さくらの家福祉農園

【施設部会】睦母子生活支援施設、さくらの家福祉農園、保育園キディ、なぎさ第二保育園、特別養護老人ホーム葉山グリーンヒル

◇監事会 5月17日(木)

◇評議員会 5月29日(火) ①理事の選任、②監事の選任、③平成18年度県社協事業報告並びに収入支出決算報告(案)

ともしび基金果実による 地域福祉実践の広がり

平成十八年度「ともしび基金・共生の社会をつくる市民活動助成金」は二十三団体に助成を行いました。ボランティアグループや当事者団体などが活動を展開していく上で、活動資金の確保は大きな問題です。

この事業は、「ともに生きる福祉社会づくり」の広がりを目指し、ボランティアや当事者など幅広い市民の協働による先駆的・波及的な地域活動に對して、ともしび基金の果実(利子)より助成をするものです。

助成団体からは「専門家によるプログラムを組むことができ、より充実した活動につなげることができた」、「外部団体との協働でイベントが拡充され、有益な情報交換が行われた」等の報告が寄せられています。たとえば、高機能自閉

症・アスペルガー症候群の子ども達の自主活動を支援している『コアら倶楽部』の奥野さんは「定例の活動に加えボランティア講座を実施できたことで、普段関わりのない人に障害を理解してもらう一助になったと思います。新たにボランティアとして加わった方もいます」と具体的な成果を話されました。助成による活

動の充実と可能性の広がりがうかがえます。

☆ ☆ ☆
「共生の社会をつくる市民活動助成金」は他と統合し、平成十九年度から「地域福祉推進(ともしび)助成金」として新たにスタートしました。詳細はお問い合わせください。(ともしび運動推進担当)

平成18年度 ともしび基金・共生の社会をつくる市民活動助成金 助成団体一覧

グループ・団体名	助成事業(一部抜粋)
横内プロジェクト〔平塚市〕◆	在住外国人への日本語教室や生活相談等の実施に関する事業
ゆーぼ〔藤沢市〕◆	重度心身障害児(者)の一時預りや余暇活動等の実施に関する事業
Love&Dream,Entertainments〔川崎市〕◆	発達障がい児の余暇活動や相談活動等の実施に関する事業
ユッカの会〔横浜市〕◆	日本語を母語としない子どもたちへの教科補習、イベントに関する事業
鎌倉市手をつなぐ育成会〔鎌倉市〕☆	知的障害児のプール教室実施に関する事業
かながわ難民定住援助協会〔大和市〕△	インドシナ難民定住者とその家族を対象とした相談事業
陽だまりの会〔平塚市〕☆	障害を持つ子どもの音楽療法等、余暇支援に関する事業
TIEユッカOB会〔県域〕◆	多文化交流セミナーの実施、交流誌「ZISA」発行に関する事業
さがみはら教育応援団〔相模原市他〕△	「生きることを考える」キャリア教育フォーラム実施に関する事業
藤沢市誘導奉仕会サンワーク〔県域〕◆	視覚障害者との外出レクリエーション、誘導講習会の実施に関する事業
神奈川ライフセービング協会〔県域〕◆	救急法、水上安全法、着衣泳法等講習会の実施に関する事業
湘南親子訓練会〔藤沢市他〕☆	動作法集中訓練・トレーナー研修会の実施に関する事業
かながわ男性ボランティアクラブ〔藤沢市他〕◆	福祉施設等への福祉介護ボランティア活動に関する事業
神奈川県精神保健ボランティア連絡協議会〔県域〕◆	精神保健ボランティアの活動や関係する情報を掲載した「精ボ連通信」発行に関する事業
湘南地区生涯学習インストラクターの会〔湘南地区〕◆	子どもや大人の居場所づくりに向けた各種教室の開催に関する事業
藤沢市自閉症児・者親の会〔藤沢市〕☆	関係機関や支援者の自閉症理解に関する勉強会の実施に関する事業
フレンド・ワン〔県域〕◆	施設や学校への動物を連れてのふれあい訪問活動に関する事業
とんがらし青年学級〔藤沢市他〕◆	養護学校卒業者の余暇・社会参加支援に関する事業
神奈川県ボランティア連絡協議会〔県域〕◆	ボランティア活動に関する調査・広報活動、研修会開催に関する事業
神奈川傾聴塾〔県域他〕◆	傾聴ボランティアの研修・養成講座実施に関する事業
コアら倶楽部〔横浜市〕☆	アスペルガー症候群の子ども達の余暇活動、支援者養成に関する事業
(財)日本ダウン症協会小田原支部ひよこの会〔小田原市〕☆	知的障害者が製作に関わった映画「ビリーブ」上映会実施に関する事業
親子サークル「カンガルーのぼけっと」〔藤沢市〕☆	障害児の長期休暇中の余暇活動支援に関する事業

[] 内は活動地域 記号◆=ボランティアグループ ☆=当事者団体 △=NPO

平成18年度社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会収支計算書

自 平成18年4月1日
至 平成19年3月31日
(単位:円)

会計区分	収入合計額	支出合計額	差引残額
一般会計	10,685,306,325	9,425,521,662	1,259,784,663
公益事業特別会計	108,232,897	95,404,000	12,828,897
収益事業特別会計(事業収支)	38,728,023	20,534,884	18,193,139
生活福祉資金特別会計	485,568,329	232,816,290	252,752,039
県単生活福祉資金特別会計	13,695,176	10,762,351	2,932,825
生活福祉資金貸付事務費特別会計	105,876,800	100,660,205	5,216,595
離職者支援資金特別会計	6,413,203,386	6,413,203,386	0
合計	17,850,610,936	16,298,902,778	1,551,708,158

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会総合貸借対照表

平成19年3月31日現在 (単位:円)

(一般・公益・収益会計)

資産の部		負債・純資産の部	
流動資産	1,485,551,270	流動負債	233,851,027
現金	68,922	未払金	179,943,536
預貯金	1,436,385,861	預り金	14,132,101
未収金	47,889,965	前受金	2,212,390
前払金	1,073,718	賞与引当金	37,563,000
貯蔵品	132,804		
固定資産	8,753,942,661	固定負債	6,656,979,223
基本財産	2,125,290	長期借入金	6,380,893,000
他固定資産	8,751,817,371	退職給付引当金	272,043,223
		子ども福祉基金引当金	1,200,000
		長期預り金	2,843,000
		基本金	2,125,290
		基本金	2,125,290
		基金	2,331,762,988
		ともしき基金	2,231,762,988
		民間社会福祉従事者福利厚生基金	100,000,000
		国庫補助金等特別積立金	6,341,751
		他の積立金	950,867,090
		次期繰越活動収支差額	57,566,562
資産合計	10,239,493,931	負債・純資産合計	10,239,493,931

(生活福祉資金関連4会計総合貸借対照表)

平成19年3月31日現在 (単位:円)

資産の部		負債・純資産の部	
流動資産	6,649,414,720	流動負債	17,020,027
預金	6,638,878,164	未払金	16,522,528
立替金	0	預り金	458,497
未収金	10,536,556	仮受金	39,002
前払金	0		
固定資産	4,391,268,422	固定負債	10,962,221,297
運用財産	4,372,999,006	交付金	11,204,576,000
他固定資産	18,269,416	県単修学資金免除金	△242,140,870
		△県単交付金	△213,833
		基金	4,340,569,550
		運用財産基金	4,340,569,550
		積立金	△10,911,522,425
		繰越金	6,632,394,693
資産合計	11,040,683,142	負債・純資産合計	11,040,683,142

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会財産目録

平成19年3月31日現在 (単位:円)

資産の部		負債・純資産の部	
流動資産	8,134,965,990円	前受金	2,212,390
現金	68,922円	賞与引当金	37,563,000円
預貯金	8,075,264,025円	固定負債	17,619,200,52円
前払金	1,073,718円	生活福祉資金交付金	3,931,100,00円
未収金	58,426,521円	県単生活福祉資金交付金	373,476,00円
貯蔵品	132,804円	離職者支援資金交付金	6,900,000,00円
固定資産	13,145,211,083円	県単修学資金免除金	△242,140,87円
基本財産	2,125,290円	△県単交付金	213,833円
他固定資産	13,143,085,793円	銀行借入金	6,380,893,00円
資産合計	21,280,177,073円	退職引当金	272,043,223円
負債の部		子ども福祉基金引当金	1,200,000円
流動負債	250,871,054円	長期預り金	2,843,000円
仮受金	39,002円		
未払金	196,466,064円	負債合計	17,870,071,574円
預り金	14,590,598円	差引純資産	3,410,105,499円

安心を支えます

ボランティア活動保険

ボランティア活動中のケガや賠償事故を幅広く補償!



特長

- 活動場所と自宅との往復途上の事故も補償
- 防災・災害のボランティア活動も補償
- ボランティア自身の食中毒や熱中症も補償
- 地震等天災によるケガも補償(天災タイプ加入の場合)

ボランティア行事用保険

ボランティア行事に参加中のケガや賠償事故を補償!

福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネジャー等の活動中のケガや賠償事故を補償!

送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の交通事故によるケガを補償!

保険料(掛金) Aプラン...280円 Bプラン...460円 Cプラン...650円
天災危険補償タイプもあります。

お申込み、ご照会は、あなたの地域の社会福祉協議会へ

社会福祉法人
全国社会福祉協議会

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

http://www.fukushihoken.co.jp

〈引受幹事会社〉日本興亜損害保険 株式会社

図 書

読んでみよう！

★障害児者へのサポートガイド（新井英靖編著、中央法規）

ボランティアや学生など、主に障害児者と初めて接する人を対象に、気をつけること等を障害別に分かりやすく説明しています。指導する側の説明資料にもおすすすめです。

資 料

価値あり！

★母子家庭の仕事とくらし 母子家庭の就労・子育て実態調査報告書②（特非しんぐるまざあず・ふぉーらむ）

四年前と今回の調査結果を比較し、母子家庭における課題を明らかにしています。自由記述の掲載が多く、読み応えのある一冊です。

★社会福祉法人の事業シミュレーション・モデル（深瀬勝範著、中央経済社）
★高齢者福祉サービス事業者のためのQ&A 苦情・トラブル・事故の法律相談（平田厚著、清文社）
★社会福祉法人のための個人情報報

★社会福祉法人の事業シミュレーション・モデル（深瀬勝範著、中央経済社）
★社会福祉法人の事業シミュレーション・モデル（深瀬勝範著、中央経済社）
★社会福祉法人の事業シミュレーション・モデル（深瀬勝範著、中央経済社）

★社会福祉法人横浜市社会福祉協議会協働指針（横浜市社会福祉協議会）
★ともしび双書 神奈川県福祉行政コンクール入選作品集（平成18年度版）（神奈川県社会福祉協議会・神奈川県共同募金会）
★平成16年神奈川県社会福祉施設等調査報告（神奈川県保健福祉部）

★地域保健福祉課
★はじめて地域福祉の担当になった方のために（神奈川県保健福祉部地域保健福祉課）
★平成17年度全国知的障害児・者施設実態調査報告書（日本知的障害者福祉協会）
★施設利用者の権利擁護に関する実態調査（日本知的障害者福祉協会）
★重篤心身障害児（者）の支援に関する調査報告書（全国重症心身障害児（者）を守る会）
★第9回自閉症療育者のためのトレーニングセミナー（神奈川県自閉症児・者親の会、横浜市自閉症児・者親の会）
★平成18年度神奈川の特別支援教育資料（神奈川県教育委員会）
★交通遺児育英会35年史（交通遺児育英会）
★清流30年のあゆみ（神奈川県交通遺児家庭の会） ほか9冊

私のおすすめの1冊



『定年後
～豊かに生きるための知恵』
加藤仁著

県社協県民活動推進部
部長 落合幸臣

「団塊の世代の大量退職」、「2007年問題」。これらの言葉は、この世代の定年退職に伴う社会的な課題のキーワードとして、よく使われます。

定年退職をされた方達は、人生の第二ラウンドをより充実したものとするため、各人にあった健康で快適な生活を送ることが望まれます。

この本は、著者が25年以上にわたって行った三千人以上の定年退職者へのインタビューを集約したものです。人それぞれのシニアライフが具体的に記述されており自分にあった生き方のヒントがつかめるかもしれません。

シニアの方も、これからシニア世代を迎える方も一読に値すると思われます。



2007年2月刊
定価777円（税込）
岩波新書

「福祉情報資料室」をご利用ください！

閲覧室のほか、文献検索、利用相談等のサービスを行っています。

◆利用時間：月～金（第3金曜、祝日、年末年始等を除く）の9時～17時

◆問合せ：☎045-311-8865
FAX 045-313-9341

◆インターネットでの資料検索

<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyot/sosyo/>

～「新着情報コーナー」ができました。ぜひご利用ください！～

第44回社会福祉セミナー

「地域生活を支援する社会福祉システムー新たな担い手を問うー」をテーマに、北川正恭氏（早稲田大学教授・前三重県知事）による基調講演、講座「①福祉行政の役割と担い手としての明日を問う」、「②地域生活を支援する施設実践・相談活動の担い手の明日を問う」、「③地域生活を支援する専門職の担い手としての明日を問う」、他が開催されます。

◇日時 7月24日（火）10時～25日（水）15時30分

◇会場 有楽町朝日ホール

◇参加費 七千五百円

◇問合先 ㈱鉄道弘済会

☎03-5276-0325

湘南ふくしネットワークオンブズマン10周年記念シンポジウム

「市民による地域に根ざした権利擁護」をテーマに、大石剛一郎弁護士による基調講演、シンポジウムが開催されます。

◇日時 7月21日（土）13時15分～16時45分

◇会場 茅ヶ崎市民文化会館

◇参加費 千円（資料代含む）

◇問合先 ㈱ネット事務局江崎

☎0466-81-9218

中高生のボランティア体験事業参加者募集

◇日時 7月22日（日）、体験3日間（夏休み中）、8月26日（日）

◇対象 中学生、高校生60名

◇参加費 八百円

◇問合先 ㈱神奈川県青少年協会

☎045-402-0346

第6回かながわシルバー美術展作品募集

高齢者の創作による日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真を展示し、高齢者の文化活動を促すとともにふれあいと生きがいづくりを推進する美術展を開催するにあたり、県内にお住まいの60歳以上のアマチュアの作品を募集します。

◇応募締切 8月3日（金）必着

◇会場 搬入日 8月27日（月）

◇会場 神奈川県民ホール

◇出品料 五百円

◇問合先 本会かながわシニア社会

参加推進センター

☎045-312-1121（代）

平成19年度地域福祉推進（ともしび）助成金第2期募集

◇対象 ①先駆的・モデル的事業、

②当事者活動、③ボランティアグループ等が市町村域を越えて取り組む事業

◇助成限度額 ①百万円 ②五十万円

（重点事業は百万円）、③三十万円

◇募集〆切り 7月31日（火）

◇問合先 本会ともしび運動推進担

当 ☎045-312-1121（代）

寄付金品ありがとうございました

【一般寄付金】▽日本発条㈱▽協隆

志【交通遺児援護基金】▽㈱神奈川

県指定自動車教習所協会▽延平雅彦

・浩二【ともしび基金】F.U.J.I馬

場店▽さがみ農業協同組合南湖支店

▽神奈川県宅地建物取引業協会▽オ

ガワヒロミ（計三、七二五、九五〇円）

【寄付物品】▽日本発条㈱▽日本

シャクリー㈱▽神奈川県民共済生活

協同組合▽神奈川県定年間問題研究会

▽今野加代子▽みとみ山荘北林二郎

（敬称略）



去る5月25日、㈱CFCSコーポレーション石田健二代表取締役会長兼社長より、㈱カネボウとの共同販促キャンペーンの売上金の一部について寄付があり、本会、林会長に目録が渡されました。

あなたの情報発信のおてつだい
デザイン・印刷・ホームページ制作

きかんし印刷
株式会社 神奈川機関紙印刷所

〒236-0004 横浜市長沢区福浦 2-1-12
営業部 TEL045(785)1700代 FAX045(784)8902
制作部 TEL045(785)1786 FAX045(780)1598
http://www.kki.co.jp/

神奈川県福祉研究会
（税務・会計の専門家グループ）

理事 伊藤 正孝（☎045-412-2110）
同 桑江 郁男（☎045-402-4433）
同 辻村 祥造（☎045-311-5162）
同 西迫 一郎（☎046-221-1328）
同 林 雄一郎（☎0466-26-3351）
代表理事 八木 時雄（☎042-773-9266）

一般家庭から大型ビルまで
最新のエレクトロ技術により
安心と安全を提供します。

京浜警備保障株式会社

代表取締役会長 谷 口 榮
代表取締役社長 谷 口 嘉 弘

本 社 〒221-0036 横浜市中区金港町5番地10 金港ビル4F内
☎(045)461-0101 代表 FAX (045)441-1527



手作りの布おもちゃを通じてぬくもりを届けたい 布おもちゃサークル・ピノキオ（相模原市）

今年四月、子どもの読書活動を推進する文部科学省大臣表彰があり、神奈川の二団体一人も選ばれました。相模原市で活動を始めて十七年になる「布おもちゃサークル・ピノキオ」（以下、「ピノキオ」（渡辺美津子代表）はそのひとつです。

活動先いろいろ

ピノキオは、市主催の布おもちゃ講座を受講した有志が発足したボランティアグループです。現在、メンバーは約三十名。布おもちゃの製作や展示、貸出を中心に、図書館での「布えほん展」や



手作りの魚いろいろ。さんま、いわし、たい、いか、えび。細部までこだわりがあります。



様々なイベントへの参加、こどもセンターや保育所、育児サークル等への訪問も行っています。



おはなし会の様子。布えほんの愛らしさと読み手の感情豊かな表現は、子どもたちに大人気です。

子どももおとなも さわって感触を楽しんで

五月十九日に橋本図書館で開かれた「布えほん展」にも多くの人が来場しました。「ジャックと豆の木」、「七匹の子やぎ」などのおはなし会は、登場する人形の動きに誰もが夢中でした。作品は自由にさわることができ、子どもからお年寄りまで部屋のあちこちから歓声があがり、笑顔が広がります。

「布おもちゃの魅力は、彩りの優しさ、ぬくもり、音など、様々な感覚を通して味わえるところですね」と渡辺さんは言います。実際、高齢者施設への訪問や、障害者地域作業所が運営するおもちゃ図書館への寄付も好評です。

元気をもらいながら

「縫い物が苦手な方でも、おはなし会の読み手やおもちゃの搬送、チラシ作りなど、何でもかかわっていただけると助かります」と渡辺さん。「メンバーの年齢は三十代から八十代まで幅広く、男性もいます。自分のできる範囲で楽しみながら参加することを大切にしていきます」と発足時からの栗山さん。

公民館や図書館、杜協の職員、他サークルの講師など、多くの人に支えられながら、地域のふれあいのきっかけづくりは続いています。「作品を見て喜ぶ子どもの姿に元気をもらいながら、今後も生きがいとして続けていきたい」ピノキオです。

布おもちゃサークル・ピノキオ
042-754-9493（代表 渡辺）

発行日 2007年平成19年6月15日 毎月1回15日発行 発行所 〒221-0844 横浜市中区神奈川4番地の2
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会 TEL 045-311-1423 FAX 045-312-6302 編集発行人 米倉孝治

印刷所 株式会社 神奈川機関紙印刷所

一社会福祉施設の設計監理一

株式会社 安江設計研究所
YASUE & ASSOCIATES'Inc.

東京都港区高輪2-19-17-808
TEL03(3449)1771/FAX03(3449)1772
URL:www.yasue-sekkei.co.jp
E-mail: yasue@yasue-sekkei.co.jp



S 保育園（横浜市）



新築・増築・改修の他、耐震診断・建物定期報告・アスベスト調査等お気軽にご相談ください